

事例 21 地域と連携したミヤマキリシマの保全活動

(九州森林管理局 長崎森林管理署)



- ・長崎県 雲仙市 千々石温泉岳国有林
- ・(左)ミヤマキリシマと放牧牛(令和8(2026)年5月)
- ・(右)ミヤマキリシマの保全活動の様子(令和7(2025)年5月)

「日本美しいの森 お薦め国有林」に選定されている田代原風致探勝林には、九州地方の高山で代表的な景観であるミヤマキリシマの群落広がっています。かつては放牧が盛んに行われ、牛が食べないミヤマキリシマが群落を形成していましたが、放牧地の減少に伴って他の草木が繁茂するようになり、日陰では育ちにくいミヤマキリシマの群落は縮小傾向にあります。

長崎森林管理署では、NPO 法人や県・市、農業協同組合で構成される「雲仙田代原レクリエーションの森運営協議会」と連携し、毎年数回ミヤマキリシマの保全活動を行っています。

令和7(2025)年度は、長崎大学の現地実習に同署の職員を講師として派遣し、草原保全に関する講義や、草刈り実習の指導を行うなど、地域一体でミヤマキリシマの保全活動の普及に取り組みしました。また、協議会メンバーとともに、地元の銀行や企業の職員が保全活動に協力し、ミヤマキリシマ周辺の草刈りを実施しました。参加者からは、「放牧されている牛と草原ときれいな花、奥に見える九千部岳という風景が綺麗だった」など、保全活動への参加が有意義であったとの感想が寄せられました。

同署では、引き続き、国民がレクリエーションや観光を楽しむことができる豊かな自然環境の保全に向けて取り組むこととしています。